

令和5年度 北九州市総合教育会議（第2回） 意見まとめ（速報）

1 市長

（1）総論

次期教育大綱は、1が学校、2が児童生徒のマインド、3が児童生徒のスキル、4が教職員、5が地域という構造にしている。

新ビジョンに「一步先の価値観を体現する都市」を掲げ、「一步先の価値観」として、利他、能力開花、持続可能を例示した。一步先の価値観は、教育も合わせ鏡である。

（2）こどもまんなか

「こどもまんなか」を考える上では、こどもの持っている可能性・特性を尊重することと、こどもも大人のように扱おうという思いを両立する必要がある。

（3）「2 こどもが失敗を恐れず挑戦し、志と人間力を高められる環境をつくります」

若い人の意見を尊重し、チャレンジできる場を与え、失敗しても支えるということが見えるようにしたい。

自分なりの価値観・哲学を持つためには、人との関わり合いを増やすことをベースに、色々な経験や対話をすることが大切。そこで、先生や地域の人との緩やかな対話の機会を増やしていくことが一つの切り口になる。

学校教育は、1つ目が摩擦を含めた他者との協働の場、2つ目が他者を介しての自らの発見の場、3つ目がレジリエンスを獲得する場と考えている。うまくいかないことがある中で、どう立ち直るかを学ぶことが大切。

（4）「5 地域とのつながりの中で、社会全体でこどもを見守り支え、育てます」

ここに「郷土愛の醸成」を掲げた理由は、1つは、地域に愛着があるからこそ、公助や互助が機能するということ。もう1つは、自分を育んだ地域に向きあうことで、自分自身の存在に思いを巡らすことができるということ。

2 教育委員

（1）総論

この大綱案は、これまでの議論が丁寧に反映されており、目指すべき方向性が明確になっている。

教職員、保護者、地域住民も変わっていかないといけない。機会を見つけながら、みんなが一緒になって考えていくような場面を大切にすることが必要。

（2）こどもまんなか

大人側も、こどもを自由にさせた上で、責任を取る勇気を持つ必要がある。

（3）「2 こどもが失敗を恐れず挑戦し、志と人間力を高められる環境をつくります」

レジリエンスという言葉に、一人で乗り越える力、支え合って乗り越える力、学校や周囲の大人が支えていく力が集約されている。

「自分なりの価値観・哲学」に注目している。チャレンジするためには、自分を信じる力が必要であり、そこに結びつけるのが、今までの教育では難しかったところ。

こども一人ひとりが生まれながらに持っている好奇心や個性といった「生きる力」を大人が信じて、磨き上げれば自然と培われていく。そのためには、大人の意識改革も必要で、大人や教職員も失敗する中から成長するという意識が必要。

（4）「4 自律的で特色ある学校づくりを進め、教職員のウェルビーイングを高めます」

この大綱案では、教職員に高い指導力が求められる一方、教職員が尊重され、健康を保ちながら、こどもの教育に向き合っていくという要素が盛り込まれていることに意味がある。